

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 12 月 22 日 (2005.12.22)

【公表番号】特表 2004-529091 (P2004-529091A)

【公表日】平成 16 年 9 月 24 日 (2004.9.24)

【年通号数】公開・登録公報 2004-037

【出願番号】特願 2002-560673 (P2002-560673)

【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 K 45/00
 A 6 1 K 31/122
 A 6 1 K 31/136
 A 6 1 K 39/00
 A 6 1 K 39/07
 A 6 1 K 39/39
 A 6 1 K 39/395
 A 6 1 P 17/00
 A 6 1 P 31/04
 A 6 1 P 31/10
 A 6 1 P 31/12
 A 6 1 P 35/00
 A 6 1 P 37/02

【F I】

A 6 1 K 45/00
 A 6 1 K 31/122
 A 6 1 K 31/136
 A 6 1 K 39/00 A
 A 6 1 K 39/00 H
 A 6 1 K 39/07
 A 6 1 K 39/39
 A 6 1 K 39/395 A
 A 6 1 K 39/395 H
 A 6 1 P 17/00
 A 6 1 P 31/04
 A 6 1 P 31/10
 A 6 1 P 31/12
 A 6 1 P 35/00
 A 6 1 P 37/02

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 7 月 5 日 (2004.7.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

音増感剤および / または光増感剤であるアミノ置換ヒポクレリンを含み、その活性化ヒポクレリンが免疫療法剤の潜在能力を調節することからなる、該免疫療法剤の活性を調節

するための医薬組成物。

【請求項 2】

所定の周波数の音を使用してヒポクレリンを活性化することをさらに含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

所定の波長の光を使用してヒポクレリンを活性化することをさらに含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 4】

免疫療法剤が抗体、抗原、サイトカインおよび免疫アジュバントからなる群から選択される、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 5】

ヒポクレリンが、不活性状態では高濃度で無毒であり、活性状態では低濃度で有毒である、請求項 1 に記載の組成物。

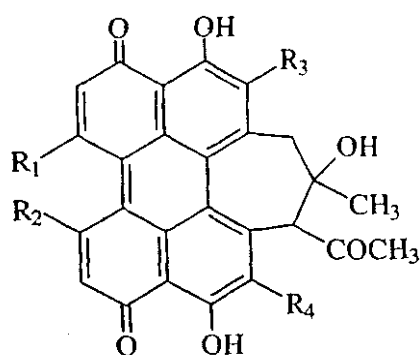
【請求項 6】

ヒポクレリンがブチルアミノ化ヒポクレリン B、2 - (N,N - ジメチルアミノ) - プロピルアミン - ヒポクレリン B、エタノールアミノ化ヒポクレリン B、および 1,12 - ビス[2 - (アセチルオキシ)プロピル] - 2,4,6,7,9,11 - ヘキサメトキシ - 3,10 - ペリレンジオンからなる群から選択される、請求項 1 に記載の組成物。

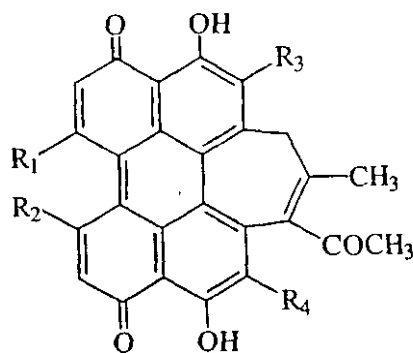
【請求項 7】

ヒポクレリンが下記式 V または VI :

【化 1】



V



VI

[ここで、 R_1 、 R_2 、 R_3 、および R_4 が OCH_3 または $NHCH_2Ar$ (Ar はフェニルまたはピリジル基である)、もしくは $NHCH(CH_2)_n$ ($-CH(CH_2)_n$ は脂環式基であり、 n は 3、4、5、6 である) である] の化合物から選択される、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 8】

R_1 、 R_2 、 R_3 が OCH_3 であり、 R_4 が $NH(CH_2)_3CH_3$ である、請求項 7 に記載の組成物。

【請求項 9】

R_1 、 R_2 、 R_3 、 R_4 が OCH_3 または $NHCH_2(CH_2)_nAr$ であり、式中 Ar がフェニル、ナフチル、多環式芳香族または複素環基であり、 n が 0 ~ 12 である、請求項 7 に記載の組成物。

【請求項 10】

逐次またはバッチで免疫療法剤と共に、ヒポクレリンが使用されることをさらに含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 11】

皮膚症状、癌、ウイルス性疾患、レトロ・ウイルス性疾患、細菌性疾患、自己免疫疾患

または真菌性疾患を治療するための、請求項 1 に記載の組成物。